

## 編集後記... 【酔醒漫筆】

時事問題には、つとめて容喙しないように、自制して暮らしてきたつもりだが、近頃の極楽トンボな日本人の他民族との衝突を見ていると、またぞろ人格が混乱しているとか考えられない。／国際政治力学上、末節にばかり囚われ、何が原則かを見落としている。国益とは何か、を忘却して久しい。アメリカに去勢された民族-日本人。／2001年9月11日の同時多発テロ発生を仔細に分析すれば、WTCとペンタゴンの爆破が、いかにアメリカの国益のために起こされたかが分かるはずだ。パックス・アメリカーナ(米国主導の世界)とはバーチャルを基本としている。敷衍すれば、それは国土の安全も経済もすべてバーチャルが支配しているということなのだ。現実の貿易での為替取引は年間一兆ドルだが、バーチャル取引では一日一兆ドルが飛び交っている。どこの国家予算も、独自では、とても太刀打ちなどできるはずもない。20世紀のパラダイムが変わってしまったのだ。世界はすでに未踏のフロンティアへ突き進んでしまった、としか云いようがない。二つの国家からできているアメリカの弱点を指摘するのは、またの機会にとっておく。／12月10日の「新防衛大綱」の意味とは何か。中国の大陸弾道弾ミサイルに対抗するための日米共同MD(ミサイル防衛)とは、上海万博前後の中台戦争への布石なのだ。なぜ沖縄の制空権を米軍は2007年をめどに全面返還するのか。日本に向けてのテポドン・ノドンミサイル発射に対して、なぜ、日米安保は機能しなかったのかを真摯に考えてみよう。北朝鮮に眠る2000万トンにおよぶウラニウム鉱山とは世界消費量換算にして2000年分である。ウラニウムを制した者が世界を制するのだ。ここに、アメリカの国益と国家戦略の原則を解く鍵への些少のヒントがある。日本は、ペリー来航時より、アメリカを巻きこむための対米カードの切り方を研究してこなかった。残念。／今年乙酉(イツ・ユウ)の年。その干支を紐解けば、紆余曲折ながら、大願成就される、と云う意。年頭にあたり、会報誌を愛読して下さる皆様方の、ますますの活躍と大いなるご清福を心よりお祈り申し上げたい。(息游軒)